

## 松柏美術館にて、お茶会・お話・音楽の集い

### 「第124回 フランス・アラカルト」開催（3／31）

当日は晴天に恵まれ、松柏美術館の庭には朱色の椿と一部咲きの枝垂れ桜が咲いていました。お茶室の床の間には『大導透長安』東大寺別当清水公照筆の掛軸がかけられ、柱の竹筒の花器にはカラモモ・ヤマブキ・ハナズオウが生けられていました。カラモモの小粒の朱色と黄色の混じり合った蕾が印象的でした。お茶の先生のご自宅のお庭に咲いていたものだそうです。桜色の主菓子に、お薄を萩井戸茶碗銘『心葉』で頂きました。高台のがっしりとしたお茶碗が掌にほどよくおさまり、器の茶色とお薄の淡い緑が調和して、唇に触れると馴染んで、お抹茶を喉元で少しづつ味わうことが出来ました。日頃忙しく介護の仕事に邁進している私には、息抜きとなりました。あらためて茶道の素晴らしさを知るとともに、お茶会の支度をしてくださった瀬田宗清様・小林宗智先生とお手伝いの皆様のお遣いのすべてが、とてもありがたく思われました。



(井田真弓)

\*\*\*\*\*



アラカルト第2部は、三野会長のご挨拶に続き、ゲストの長嶺知永子さんのお話（story telling）です。まず演台の蝋燭を灯し、日本の精霊の民話を枕に、サン・フェアリー・アンという美しい人形をめぐる物語を情感豊かに語っていただきました。ストーリーの背景には、第一次世界大戦のさなか、あるイギリス兵士がフランスの戦場で（実は由緒ある）人形を拾ったこと、フランス人兵士が“Ça ne fait rien!”と励ます声を英語風に記憶したこと、そして持ち帰った人形に San Fairy Ann と名付け娘に与えたことがあります。文字で読むのと違い、すぐれた語りには臨場感を高める力があるのか、感動しました。言語は「話す・聞く」が基本であることを再認識しました。

第3部はもう一人のゲストの、いいだむつみさんによるフランスシターの演奏です。これは西欧の修道院で受け継がれ、教会などで祈りのため弾かれ育まれた楽器だったとのこと。パイプオルガンと異なり、大きさは持ち運びできるほどで音量も小さく、感覚を研ぎ澄ませて聴く楽器です。フランスの作曲家の4曲とご本人作曲のものを含め日本の6曲を演奏していただきました。右手で弾かれる主旋律はハープのような音色でもあり、左手で付ける和音と伴にかなでられる、美しい微妙な音色を楽しみました。独特の余韻があり、拍手の開始がためらわれる雰囲気でした。

(濱恵介)

\*\*\*\*\*

参加者は46名（うち会員14名）。ぽかぽかした春の陽気の中、内容盛りだくさんのプログラムでした。御協力をいただいた関係者の皆様、ほんとうにありがとうございました。

(編集部)

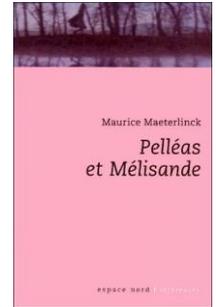


フランス文学の庭から <38>

三野博司 (会長)

名句の花束

Ne me touchez pas ! ou je me jette à l'eau.  
 さわらないで！ でないと水に飛び込むわ  
 (メーテルランク『ペレアスとメリザンド』1902年)



「美女と野獣」の変奏ともいえるべき作品を二つとりあげたあとは、「騎士と精霊」の系列の諸作品を紹介しましょう。このジャンルの代表作ともいえるべきジロドゥーの『オンディーヌ』はすでに第9、10回で登場しています。水の精伝説の物語ですが、さまざまなバリエーションがあります。

ドビュッシーのオペラで知られる『ペレアスとメリザンド』のヒロインもそのひとり。とらえどころのない不思議な魅力をたたえ、人間であるはずなのにまるで水の精ではないかと思わせます。ゴローがはじめて彼女を見つけたのは森のなかの泉のほとりでした。彼女は繰り返し水に飛び込むと言ってはばかりません。

« Ne me touchez pas ! ou je me jette à l'eau »

さわらないで！ でないと水に飛び込むわ

どこから来たのかと問うと「遠くから」と答え、年はいくつかと訊かれて「寒いわ」と応じる、そんな彼女に魅せられたのか、ゴローはメリザンドを城に連れ帰り、後妻とします。けれどもメリザンドには、すでに見た水の精ウンディーネやオンディーヌのような一途の恋心も、快活さありません。ただ、物憂げであやしい無邪気さが生み出す魅力によって、男性を破滅へと導いていくのです。

ドビュッシーのオペラは1902年に初演されましたが、もとはといえば『青い鳥』の作者として知られるベルギー象徴派のメーテルランクによる演劇作品であり、1892年ブリュッセルで出版されました。『青い鳥』(1908年)はおろか『ペレアスとメリザンド』もまだ発表されていない1891年1月26日、若い日のジッドが友人のヴァレリー宛に書いた手紙があります。「ぼくも象徴主義者です。[...] したがって、詩においてはマラルメ、戯曲においてはメーテルランク——そしてこの二人と並ぶとやや矮小な感じがしますが、小説においては「ぼく」と付け加えます」。この時代に早くも、ジッドの目には、メーテルランクが象徴主義演劇の代表者として映っていたことがうかがわれます。

パリでの初演は1893年5月17日、ブッフ・パリジャン座、リュネ=ポーの演出、メリザンド役はサラ・ベルナルでした。舞台を見たドビュッシーは戯曲を購入し、一読して感動。音楽をつけることを考えたのです。原作の5幕19場から4場をカットし、5幕15場として、1902年4月30日、オペラ=コミック座で初演されました。これは、ドビュッシーにとって生涯でただ一曲のオペラ作品となりました。

CDはクリュイタンス盤とカラヤン盤が以前から高い評価を得ていますが、映像で見たい人にはDVDが二種出ています。1992年のブーレーズ指揮、ウェールズ・ナショナル・オペラのもの、より新しい2004年のヴェルザー=メスト指揮、チューリッヒ歌劇場のものです。12年の開きがありますが、いかにもオーソドックスで原作の神秘的な雰囲気をよく伝える前者のシュタイン演出に比べて、後者のベヒトルフ演出は、



奇抜さを狙う傾向にある近年のオペラ演出の流れを汲むものに思われます。奈良日仏協会シネクラブでフランス・オペラを取り上げたときには、シュタイン演出版を鑑賞しました。ここでメリザンドを演じているのはイギリス人のハーグレイ。水の精のようなはかなげな風情と、そこはかとない悲しげな表情をたたえています。他方でチューリッヒ歌劇場の歌姫イザベル・レイのほうは、歌唱力は確かなものの、メリザンドにしては存在感がありすぎる感じもします。

## ハイカイと徘徊、または内なる異邦人 泉悦子(いずみ えつこ)

先日、三野博司先生の奈良女子大学退官記念の最終講義「カミュ」について聴きに行った。「カミュはすごい」の締めくくりどおりの収穫いっぱいのお話であった。わが家にも『異邦人』『ペスト』『転落』を一冊に収めた『世界文学全集』がある。結婚したころからあったから、それほど古い本なのだ。

実存主義は当時の知識人や学生のあいだに、単なる流行以上の、現代を生きるための思索を誘った。存在の意味やモラルを追いつめてゆくサルトルやボーヴォワール、カミュの提起するテーマの重さを、ともにうけとめようとする受け皿はまだ私たちの時代にもあった。時代はますます複雑になって考える領域は社会的にも個人的にも無限に湧いているのに、当時からの問題が何一つ解決できていない気がする。肝心の自分の思考力自体がそういう思想の重さに耐えられなくなっているようにも思えてくる。それはそれとして、カミュも関わりの深かったフランスの大手出版社のガリマール社の名に覚えがあった。

ガリマール社から出ている俳句のアンソロジー (Haiku du XXe siècle, traductions de Corinne Atlan et Zéno Bianu, Poésie, Gallimard, 2007) に、私の初期の句が採用されている。これは思わぬ縁であった。日本の俳壇でまったく無名である私の句が、どうして知られたのだろうか？ しかし、ともかくこの一句の「国際化」が機縁となって、私は2007年ごろにすでに「フランス」と結びついていることに気がついた。その原句と仏語訳はこうである。



舌端に風景隠す異邦人 堀本 吟

Au bout de sa langue  
il cache des paysages —  
l'étranger

Horimoto Gin

無季の俳句である。翻訳が明快に良く出来ている。俳句の先輩が、「これはフランス人にわかりやすい

わ」といった。これがフランス人の目にとまったのは、キーワードに「異邦人」という言葉があったからではないだろうか？ と三野先生のお話を聞きながら思った。それなら、意図は正確に伝わっている。

そしてこの句は、《永遠のライトニング》というネットサイトに、そこからの仏語訳の方が載せられており、その日本語訳は以下のごとく。

言語を指定した後

それは風景を隠し

見知らぬ人

堀本ジン

自動翻訳かと思うほどたどたどしいが翻訳者がいるらしい。翻訳の翻訳は原句とは似つかない言葉になる。私の俳号は「堀本吟(ほりもとぎん)」。ローマ字で書くと「Gin」は「ジン」と発音されるので、私は「Guin」(グイン)と書くことにしている。あちらでは「Gin=ジン」となるので困っている。ネットに頼ると、日本語の俳句はかろうじてフランス語訳はできても、そこから元の句には戻れない。

さらなる連鎖反応があった。このサイトを教えてくれた未知のフランス人が、自分のフェイスブックに、仏訳された私の句を載せて紹介し、「自分の感覚に合う」と言って、お友達申請してこられた。その方は、日本の俳句を時々アップし、奥様は日本人のアーティストで、当地で書道展や日本食の紹介など活躍しておられる。これは現実のことだ。グーグルの自動翻訳によれば、私の句は以下のごとく説明される。

彼の舌の端の風景 -

海外を非表示にします。 堀本ジン

俳句は語数が少ない為に、それ自体が多義的である。異言語に翻訳されたり、インターネットの媒体をとおすと、また様々な味を帯びてくる。既にフランスでは haiku となって定着し、独特の文法(ルール)があつて、たくさんの愛好家がいるらしい。私の句が、生国と原作者を離れて吟(さまよ)う詩の言葉« l'étranger »として、数々の風景を秘めて世界中を吟っているのである。そんなことを想像すると、カミュの「異邦人」が、恰も私の内面の「異邦人」と呼び合っている気にもなってくる。

## Lettre de Pierre Silvestri depuis Paris (ピエール・シルヴェストリのパリ便り)

私にとっては、映画を観ることとロック音楽を聴くことは、純然たる喜びの源泉です。しかし、映像と音を創り出し、それらを一緒にして生命を与えることは、私に特別な興奮をもたらしてくれます。もし生涯を通して美を見つけ出すことができたなら、その人生は限りなく美しいものとなるでしょう。映画を撮ることは、より多くの人々が美しさを享受できるように、美を捉えて不朽のものにすることだと、私は考えています。

私の最新のビデオ作品の題名は、“Cosmos indigo”「コスモス・アンディゴ（藍色の宇宙）」といいます。この作品の撮影は、2014年9月に奈良で行なわれました。フィルムの編集（モンタージュ）は今年の1月に仕上げました。この映画のサウンドトラックは、詩人の藤井わらびさんの日本語の詩からの抜粋を部分的に用いながら、私がフランス語で歌詞を書き、友人の Zaäk Arandi が曲をつけ、この映画の出演女優と私とが歌っています。約8分のこの短篇の制作に、私は一心に取り組み自分の気持をこめました。場面がすすむにつれて、日本人女性の顔が画面上の細かい粒子にあふれだし、映画の空間＝時間を形成します。その顔は、くり返しあらわれると同時に、比類のない背景となります。



女性の顔は、地球の様相、さらにはそれ以上のものを具現化しています。なぜなら宇宙は、画面上の眼に見える肌理の個々の細部の中に、全体が含まれているようにみえるからです。肖像と風景とが、一つのを創りだします。いかなる女性の顔なのか？ 恋する女性の顔？ ボスの女性の顔？ 女神の顔？ または全く別のもの？ 観客には、自らの考えと幻想に従って、自分の欲するものを想像する自由があります。私は近いうちに、このビデオ作品を日本で上映する機会があることを願っています。

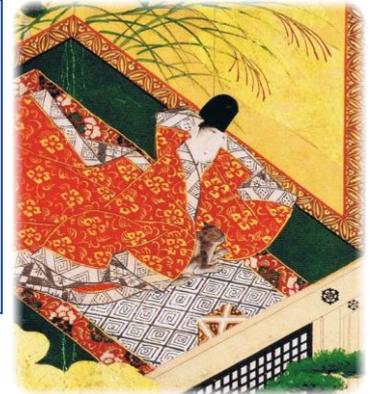
## 仏訳『源氏物語』拾い読み：宮にさぶらふ“セレブな猫”（35帖「若菜下」より）

C'était un chat de Kara, assez différent de ceux de chez nous. Tous les chats certes se ressemblent, mais ceux-là sont d'excellente nature, et quand ils sont apprivoisés, ils sont étrangement attachants. C'était en dire assez pour piquer la curiosité du Prince. Celui-ci, par le truchement de la dame du Clos au Paulownia, pria que l'on voulût le lui prêter, ce qui fut fait. —En vérité, c'est un chat fort mignon ! s'exclamèrent ses femmes. Le Capitaine des Gardes des Portes qui avait, à son air, deviné qu'il demanderait à voir l'animal, laissa passer quelques jours, puis revint le voir. (traduit par René Sieffert)

（現代語訳）「唐猫で、こちらのとは違った恰好をしてございました。同じようなものですが、性質がかわいらしく人なつっこいのは、妙にかわいいものでございます」などと、興味をお持ちになるように、特にお話し申し上げなさる。お耳にお止めあそばして、桐壺の御方を介してご所望なされたので、差し上げなされた。「なるほど、たいそうかわいらしげな猫だ」と、人々が面白がるので、衛門督（柏木）は、「手に入れようとお思いであった」と、お顔色で察していたので、数日して参上なされた。」

（解説）

もともと日本には猫はいなかったというのが定説ですが、奈良時代になると遣唐使船などで貴重な文献や経典などを日本にもたらす過程で、ネズミの害から護るために当時の隋や唐から猫を輸入されたのが端緒です。平安中期になると並みの猫とは別に、ペットとして「唐猫（からねこ）」が珍重され、特に宮廷ではその気高いふるまいなどから犬以上に愛玩されるようになりました。枕草子には「五位」の位階まで賜って乳母までつけられたセレブな唐猫の記事があり、源氏物語でも同様で、唐猫の現れるシーンが三か所ほどあり、上の絵では、叶わない片想いの対象である女三宮の愛猫を借り受けていつくしむ柏木、後日、これでエスカレートした彼の情熱は不倫の恋へと駆り立てました。



女三宮の愛猫をめぐる柏木

（中浦 東洋司）

## 第 32 回奈良日仏協会シネクラブ例会(2/22)報告

◆映画を観る前に、タイトル『日曜日が待ち遠しい!』(Vivement dimanche!)をみて、子供らが登場するのかな、楽しそうだなと思いましたが、実際にはミステリーで連続殺人事件が起こります。でもストーリーを追いながらも全然怖くなく、話にあまり関係ないところでユーモアがたっぷりなのです。肝心の所でドアのノブがとれてしまい、なかなか外に出られなかったり、突然水道の蛇口から水が吹き出すなど、あれれっと思うのです。女主人公バルバラが、地下から上司ジュリアンの眺めている窓にわざと見えるように歩きまわるシーンなどは、女性の足の美しさを見せつけているように撮られています。探偵ごっこのような時を過ごして、二人で地下室にこもっている間、一言、バルバラが“Vivement dimanche!”と口にします。ジュ



リアンの無実が晴れて何かもうまくいく瞬間をもう少しと待ちのぞんでいて、その時間も楽しんでるようにさえ思え、観る私たちもつられて楽しくなってきます。フランソワ・トリュフォーの波乱に富んだ生涯を思いながら、また作品を味わってみたいです。(西久保美芳)

◆世界はアンバランス…。殺人事件の映画、でもその印象をまとめにくい。犯人の弁護士は、女に溺れたことが動機だというのが殺人の切実さが見えない。犯人に疑われる主人公についても、その途中の推理を見せるよりも、疑われて当然という曖昧さがにじむ。ヒロイン役のファニー・アルダン、唯一まともな役柄であるが、マネキン人形のような虚無的な美貌を強調。これら全体にみられるアンバランスがへんに斬新だった。(泉悦子)

◆探偵物とラヴコメディが織りまざった不思議な感覚の映画でした。殺人事件が起きているのに、うふっと笑ってしまう場面がいくつもあって、場所が次々と変わったり、わざと見る人を混乱させるような仕立てです。なぜ「日曜日が待ち遠しい!」のか? その時点では上司と秘書の関係でしかない二人が、日曜日には恋人同士の関係になれるからそれが待ち遠しいのか…とも。ファニー・アルダンの美しい脚が魅力的でした。(中田由美子)

◆荒唐無稽の物語展開に違和感を覚える人、筋は判らなくても映画全体の軽妙さが楽しいという人、様々な見方のあることが面白かった。観客の率直で自由な意見のやりとりを聞いて、あの世のトリュフォーも喜んでいることだろう。(浅井直子)

◆白黒で撮影されたこの映画は殺人事件の犯人を捜査するあたりから主人公は女秘書であると分かった。弁護士が犯人であることからハリウッド映画のような展開かと思った。しかし最後はホラーの感覚が薄れていく不思議な映画だった。(泉荘太)

Recette des « *Hijiki mijotés à la sauce soja* »

今回は、和食の定番メニュー「ひじきの煮物」の作り方を、会員の野澤晴香さんが紹介してくれました。将来、乾物をフランス語のレシピを添えておみやげにできるようなフランス人の友達ができるといいですね。(編集部)

【材料】乾燥ひじき 20 グラム、油揚げ半分～1 枚、人参 1/4 本、ちくわ 2 本、サラダ油大さじ 1/2、だし汁 200cc、みりん大さじ 2、砂糖大さじ 1 強、醤油大さじ 2 強 (調味料はお好みで適宜調整)

【Ingrédients】 20g de *hijiki* séchés, une tranche ou une demi-tranche de *tôfu* frit, un quart de carotte, deux *chikuwa*, huile végétale, 2dl de *dashi* (bouillon japonais), deux cuillerées à soupe de *mirin* (alcool de riz doux et épais), une cuillerée à soupe de sucre, deux cuillerées à soupe de sauce soja (adapter l'assaisonnement selon votre goût)

①ひじきは 30 分くらい浸し、水を何回か替えて洗い、ザルに取る。

Faire tremper les *hijiki* séchés dans l'eau environ 30 minutes, en changeant plusieurs fois l'eau, et les égoutter dans une passoire.

②油揚げは油抜きをして、5 ミリ位の太さに切る。

Enlever l'huile du *tôfu* frit en ébouillantant et couper en lamelles de 5mm.

③人参は千切りにし、ちくわと油揚げを縦半分に切ってから 5 ミリ位の太さに切る。

Hacher finement la carotte, couper les *chikuwa* dans la longueur et puis les tailler en lamelles de 5 mm.

④鍋にサラダ油を入れて人参を炒め、ひじき、油揚げ、ちくわを入れ炒める。

Mettre l'huile dans la casserole, d'abord faire sauter la carotte et puis ajouter les *hijiki*, le *tôfu* frit émincé, et les *chikuwa*.

⑤だし汁を入れ、3 分～5 分ほど煮たら、みりん、砂糖、醤油を入れ、さらに煮て、汁気が少なくなったら出来上がり。

Ajouter le *dashi*, faire cuire entre trois et cinq minutes environ, ajouter le *mirin*, le sucre, le sauce soja, laisser mijoter jusqu'à ce que le *dashi* soit réduit.



### 様々な出会いと読書の楽しみ

寒河江 康夫 (さがえ やすお)

奈良日仏協会のホームページを通じて、オリヴィエ・ジャメ先生の「漱石をフランス語で読む」講座に興味を持ったのがきっかけで、今年の1月に入会させていただきました。一昨年までは、東京の会社で働きながら週末にアテネフランセなどでフランス語講読の授業を受けていましたが、今は母の介護をしながらプルーストの『失われた時を求めて』を、フランス語で少しずつ読む毎日です。プルーストの原文を一人で読んでみると、どうしても解決できないことが多く、他の人の意見を伺ってみたいことが山積みです。第1巻1部『スワンの恋』を読み終わり、2部「土地の名、名」の、バルベックの崖に立ち、嵐の海の波と風に洗われるゴチック・ノルマン様式の教会の描写などを読んでいます。プルーストの文章を何度か繰り返して読むと、眩暈のようなものにとらえられることがあります。読んでいるうちに、いつのまにかプルーストの繰り出す比喩の世界に自分も入りこんで、幸福感に包まれることもあります。これから読み進めるにつれて、どんな世界が開かれるのか楽しみです。

2月の総会後の懇親会では、ジャメ先生と直接お会いしてお話をする事ができました。「漱石に感触が似たフランスの作家は誰でしょうか？」と無理やりな質問をしたところ、しばらく考えられたあと、いろいろな漱石がいるからと前置きされて、モーリアックかなとおっしゃったのが印象的でした。フランス人ゲストのピエール・レニエさんは日本への興味が深く、そんな方のお話を聞いたのも新鮮で良い経験でした。



3月の三野先生のカミュの最終講義は、冒頭の『結婚』の引用から香り高く、非常に刺激を与えられ、魅力的でした。さっそく先生の『カミュ、沈黙の誘惑』と『「異邦人」を読む』をオーダーしてしまいました。これからできる範囲で、日仏協会の行事やフランス語を使う機会を作っていきたいと思います。

### 私の部屋のベートーヴェン

三木 正義 (みき まさよし)

私の部屋にはベートーヴェンの胸像が飾られています。わが家を訪れた方はたいてい、「…？」と珍しがられます。私は、子供の頃からベートーヴェンが好きでした。小学校6年生の時の担任の先生の影響が大きかったと思います。先生はピアノが上手で、よく「月光ソナタ」を弾いておられました。そして、私はいつの間にか、本当にベートーヴェンに魅力を感じるようになり、彼の「苦しみを貫いて喜びに至れ！」という強い精神性に引かれるようになりました。高校時代は、「運命」や交響曲第7番のレコードを繰り返し聴いたものです。勉強のやる気が出ない時などには、指揮者フルトベングラーの力強い演奏を聴くと、いやでもファイトが上がりました。私にはベートーヴェンは、守り神のような存在だったのです。

ですから、自分の娘がピアノの道に進むことを決めた時、娘にもベートーヴェンの強い精神を受け継いでほしいと思いました。そこで高校へ進学した時のお祝いに、「これだ！」と思いついたのが、ベートーヴェンの胸像だったのです。百貨店や美術品店、教材店を探し回って、ようやく立派な胸像を見つけました。ところが、プレゼントの包み紙を開けた途端、娘の一言は「コワイ〜！」でした。ショックでしたが、当時フランスの音楽に夢中だった彼女への贈り物としては、相応しくなかったみたいです。

そんな訳で、以来、ベートーヴェンは私の部屋にいます。そして毎日毎日、私は彼に睨まれて、「ファイト！」と檄を飛ばされているのです…。



### 融快さん&融仙さん夫妻との出会い：「縁」からの日仏交流

生駒の宝山寺といえば、歓喜天と不動明王への信仰で、江戸時代から多くの参拝客が訪れる名刹。自宅から近いので、日頃から散歩をかねてお参りし、フランス人の客が来れば連れていく場所でもある。このたび偶然の「縁」が重なり、かつて宝山寺で修行し、宝山寺のご本尊・不動明王をフランスに勧進して真言宗のお寺を開いたフランス人和尚の融快さんと日本人の奥様融仙さんのご夫妻に、はじめてお会いするために、こちらから宝山寺に向くこととなった。お二人はこの3月宝山寺に一時滞在され、その日は柴燈護摩修行を見学されるという。

一方、現在奈良市に住むピエール・レニエさんは、学生時代から日本の仏教とりわけ真言宗をテーマとして研究していることから、フランスにいた時、すでにブルゴーニュの融快さんのお寺を訪ねていて、互いに懇意の間柄とのこと。当日は、融快さん夫妻とレニエさんとともに、修験者による護摩修行を見学。午後には融快さんが好きな場所という石切神社を参拝。お百度参りで一心に祈りをささげる人々の姿や、拝殿前にそびえる御神木の樹齢何百年もありそうな楠の大木に畏敬の念を覚えるという融快さんの言葉に、共感しながら耳を傾けた。石切神社は、私自身かつて石切に住んでいたころ散歩でよく訪れた場所でもある。しかしまさかここに、フランス人の和尚さんの案内で参拝することになるうとは…と不思議な気がした。

後日、再び宝山寺を訪ね、奈良日仏協会の会員有志の方と縁もあるとのことで、会報 Mon Nara に奈良とフランスの日仏文化交流に関するメッセージをお願いしたところ、次のような言葉をいただいた。「私たちは目に見えない様々な縁で結ばれています。その時には大したことと思わなくとも、5年後に大きな意味を持つようになることがあります。今回、京都や奈良の沢山のお寺や神社に参拝し祈りをささげました。奈良には本当にたくさんの仏様がいます。県内各地に大仏様、観音様、薬師如来様、数えきれないほどです。そして奈良には、何百年にもわたって変わることなく、それらの仏様や神様との縁を大切にして、熱心に祈りを捧げる人々がいる。それは本当に素晴らしいことです！」（浅井直子）



### 仏検 2015 年度春季試験 実用フランス語技能検定試験のお知らせ

- 1次試験 2015年6月21日(日)(1・2・準2・3・4・5級)
- 2次試験 2015年7月19日(日)(1級・2級・準2級の1次合格者対象)
- 申込受付期間(郵送): 2015年4月1日(水)~5月20日(水) 消印有効  
(インターネット): 2015年4月1日(水)~5月27日(水)
- 試験会場: 奈良女子大学他



### 2015 年度新講座の紹介

4月からマルセル・ブルーストの小説『失われた時を求めて』(À la Recherche du temps perdu)を読む講座を開講します。「風景」(paysage)を如何に描くか、愛する人物の「顔」(visage)を如何に描くか、というテーマに即して断章を選び、日本語訳を参照しながらフランス語のテキストを精読します。文の解釈をめぐる、参加者同士で意見交換しながら、小説の理解を深めていきます。合わせて、ブルーストの作品に啓示を与えたと思われるターナーやモネ他のような様々な絵画作品の紹介も行います。

☆日時: 毎月第3火曜日の14:15~16:15 ☆会場: 喫茶 Pal (近鉄生駒駅近く)

☆受講料(各回毎): 会員1,000円 一般1,200円(喫茶 Pal でのお茶代は各自)

☆教材: 毎回プリント配布(受講料に含まれる) ☆連絡先: 0743-74-0371 (浅井直子)



- |                           |                                 |
|---------------------------|---------------------------------|
| 第1回 4月21日: 「嵐の海への夢想」      | 第5回 10月20日: 「変化するアルベルチーヌの顔」     |
| 第2回 5月19日: 「浜辺を散歩する少女たち」  | 第6回 11月17日: 「パリのアパルトマンのアルベルチーヌ」 |
| 第3回 6月23日: 「カルクチュイの港の画」   | 第7回 12月22日: 「眠るアルベルチーヌ」         |
| 第4回 7月21日: 「レ・クルーニエの断崖の画」 | 第8回 1月19日: 「老いたゲルマント公爵の顔」       |

第 125 回 フランス・アラカルトのご案内

- ❖ 日時：5月9日(土) 15:00~17:00
- ❖ 会費：会員 1000 円、一般 1500 円 (ケーキセット付き)
- ❖ 会場：「菜宴」(奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F TEL: 0742-26-0835 近鉄奈良駅近く)
- ❖ 問い合わせと申込先： Nasai206@gmail.com tel & fax : 0743-74-0371



❖ ゲスト：エマニュエル・マレス (Emmanuel Mares) さん ※当日は日本語でお話をさせていただきます。(略歴) プロヴァンス大学・INALCO で日本語・日本文化を学んだ工学博士。専門は日本建築史、日本庭園史。「縁側の近代化-夏目漱石の作品を通して」を研究テーマに京都工芸繊維大学にて博士号取得。  
❖ マレスさんからのメッセージ：奈良日仏協会の皆さま、はじめまして。南仏の小さな街ニームで高校まで育ちました。大学に入ってから日本語を勉強しはじめて、1998年に初めて留学生として来日しました。その後10年間ぐらい京都で生活しましたが、2012年9月から2013年9月まで奈良に住んだことがあります。奈良文化財研究所で日本庭園の歴史を研究していました。一年間という短い間でしたが、奈良が大好きになりました。5月9日に皆さんとお話できることを楽しみにしております。

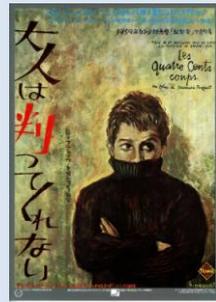
《2015 年度第 2 回理事会報告》

……事務局

日時：2015年3月19日(木) 10:00~12:00  
場所：奈良女子大学文学部 S 棟 S 312 室  
出席者：三野、ジャメ、野島、濱、浅井、井田、高島、仲井、中浦、中辻、藤村、三木  
議題 1. 1/15 の理事会後の活動報告：第 123 回フランスアラカルト(1/22)、総会・懇親会(2/11)、第 36 回シネクラブ例会(2/22)  
議題 2. 当面の活動計画：第 124 回フランスアラカルト(3/31)、第 37 回シネクラブ例会(4/26)、秋の教養講座(11 月に野島正興氏を講師に、放送大学奈良学習センターとの共催で開催)  
議題 3. Mon Nara：編集方針確認、クロネコメール便廃止に伴い、4 月から郵送に切り替える。3-4 月合併号(今号)は、長形 3 号封筒を使用し、会報と会員名簿は三つ折にして発送。  
議題 4. 講座：新講座、講座表更新の注意事項の確認  
議題 5. 会員数報告(家族会員含め 99 名)、今後の Mon Nara 郵送形式について意見交換、次回理事会でも審議継続。  
議題 6. 協会の活動に関する議論：「会則」に照らして今後の活動のあり方を考える。2015 年度予算の支出削減を盛り込んだ運用案の提出と確認。各種イベントは独立採算制の方向に。  
議題 7. フランス・アラカルト開催企画案 4 件審議：5 月 9 日(土)「縁側から庭へ」(今号に案内掲載)と 7 月 25 日(土)「金谷幸三のエスカルゴなギター」の 2 件承認。「料理」「フランス人の落語」に関する案は面白い企画になる可能性がある。(連絡事項) 当協会 HP リンクの更新。会員宛てメーリングリストはしばらく使用しない。次回理事会：5 月 21 日(木)

第 37 回 奈良日仏協会シネクラブ例会 (4/26) 案内

- ★日時：4月26日(日) 13:30~17:00
- ★会場：奈良市西部公民館 4 階第 2 会議室
- ★プログラム：フランソワ・トリュフォー監督『大人は判ってくれない』(Les Quatre Cents Coups, 1959 年, 99 分)
- ★参加費：会員無料、一般 300 円
- ★飲み会：例会終了後「味楽座」にて  
※例会・飲み会とも予約不要
- ★問合わせ：tel. 0743-74-0371 Nasai206@gmail.com



★主人公のアントワーヌ・ドワネル少年は問題児で学校をさぼり嘘がばれるとまた嘘をつき、バルザックを愛読し町の映画館にしのびこんだり…、しまいには警察につかまり少年鑑別所に。監督自身の分身でもある思春期の少年の経験する悲痛で過酷ながらやさしさとユーモアのある現実が、見事に描かれています。スクリーンに映し出される子供たちの顔が印象深い作品です。



編集後記

☆万葉集に「春の野にすみれ摘みにと来しわれそ、野を懐かしみ一夜寝にける」(巻 8-1424、山部赤人)とうたわれ、夏目漱石には「董ほどな小さき人に生まれたし」(1897 年春)と詠まれるスマレ、どこかはかなげで人の心を引きつける不思議な魅力があるようです。☆漱石の俳句はフランス語にも訳されています。J'aime la renaissance / Si c'était possible / Aussi modeste qu'une violette. (Sôseki Haikus, traduit par E. Suetsugu, Édition Philippe Picquier, 2009)  
☆2 年前の夏、南仏のスマレ名産の村 Turrettes-Sur-Loup を訪れた時、「今度は花の咲いている春にいらして下さい」と言われましたが、まだ実現していません。そのとき食べたスマレ味のアイスクリームがとても美味しかったです。(N.Asai)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。締切日：次号は **5 月 31 日**が原稿締切日です。

Mon Nara mars - avril 2015 **3-4 月**合併号 numéro268  
奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : http://www.afjn.jp E-mail : afjn\_info@kcj.jp FAX 0742-62-1741  
〒630-8691 奈良中央郵便局 郵便私書箱第 30 号 [郵便物のみ] ©発行責任者：三野博司